

慰霊の日 6・23 平和について考える!!

今年も沖縄県では6月23日に慰霊の日を迎えた。第二次世界大戦終戦から77年が過ぎようとしています。私達が今過ごしている沖縄・日本・世界は平和と言えるのでしょうか？6月23日を節目に様々な視点から平和について考える機会がありました。6月21日には名護市教育委員会市史編纂室で勤務されていた川満彰さんに講演をしていただきました。

川満先生からは、本部町における戦争の様子や少年で構成されていた護郷隊、収容所の様子など実際に体験者に話を聞いたり、自分の足を運んで聞いたりした内容等詳しく説明してもらいました。その中で私が特に印象的だった言葉は、『戦争は突然にはやって来ない』というものです。昨日まで平和だったのが今日から突然、戦争が始まるのではないかと川満先生はお話しになりました。確かに現在のウクライナ情勢を見ても、現在の状況になる前には様々なプロセスがあったようにも感じます。戦争の前には様々な兆しが隠されているのだと思います。私は平和は常に約束されているものではないと考えています。また、誰かが平和を守ってくれるのでもないと考えています。現にウクライナ情勢では、国際連合でさえも、一国の侵攻をとめることはできないでいます。これからの世界が、日本が、沖縄が平和であり続けることができるためには、平和や人権を自ら守っていく必要があると考えます。社会や政治に無関心でいて、平和が終わろうとするときに反対を訴えても遅いと思うのです。中学生の間に戦争や平和について正面から考えることはとても意義深いことだと思います。慰霊の日を良い機会として、正面から学び考えて欲しいと思います。社会を創っていくのはまさに、今ここに生きている私達なのです。ちなみに先に述べた戦争の兆しについて、川満彰先生に質問したところ、変化の兆しは『法律』に現れるのではないかと答えてました。法律を直接的につくるのは、立法府である国会です。国会の構成員である国会議員を選んでいくのは18歳以上の国民です。私達一人一人の役割は大きいと改めて感じました。

1学年では本部町立博物館で開催されている『それぞれの終戦』-体験者が残した真実-令和4年度慰霊展を見学に行きました。あまり語られることのない本部町での戦争時の様子を見ることができました。沖縄戦についてもそれぞれで深く考えてみたいものです。

